

脱原発をめざす首長会議 勉強会

「熊本地震が問うもの」

改めて原発避難を考える—熊本地震の教訓から

環境経済研究所 上岡直見 sustran-japan@nifty.ne.jp

2016年6月25日 滋賀県大津市

論点

1. 福島事故を振り返る
2. 熊本地震からの教訓
3. 避難計画の枠組みと実効性の疑問
4. 避難シミュレーションと制約
5. 福井及び関西地区に関して

福島県原子力センター資料
 事故後の経時モニタリング値
 1Gy/h=1Sv/h(環境放射線モニタリング指針)とした時の

▲ 瞬間値 500 μ Sv/h超のMP

▲ 瞬間値 20 μ Sv/h超のMP

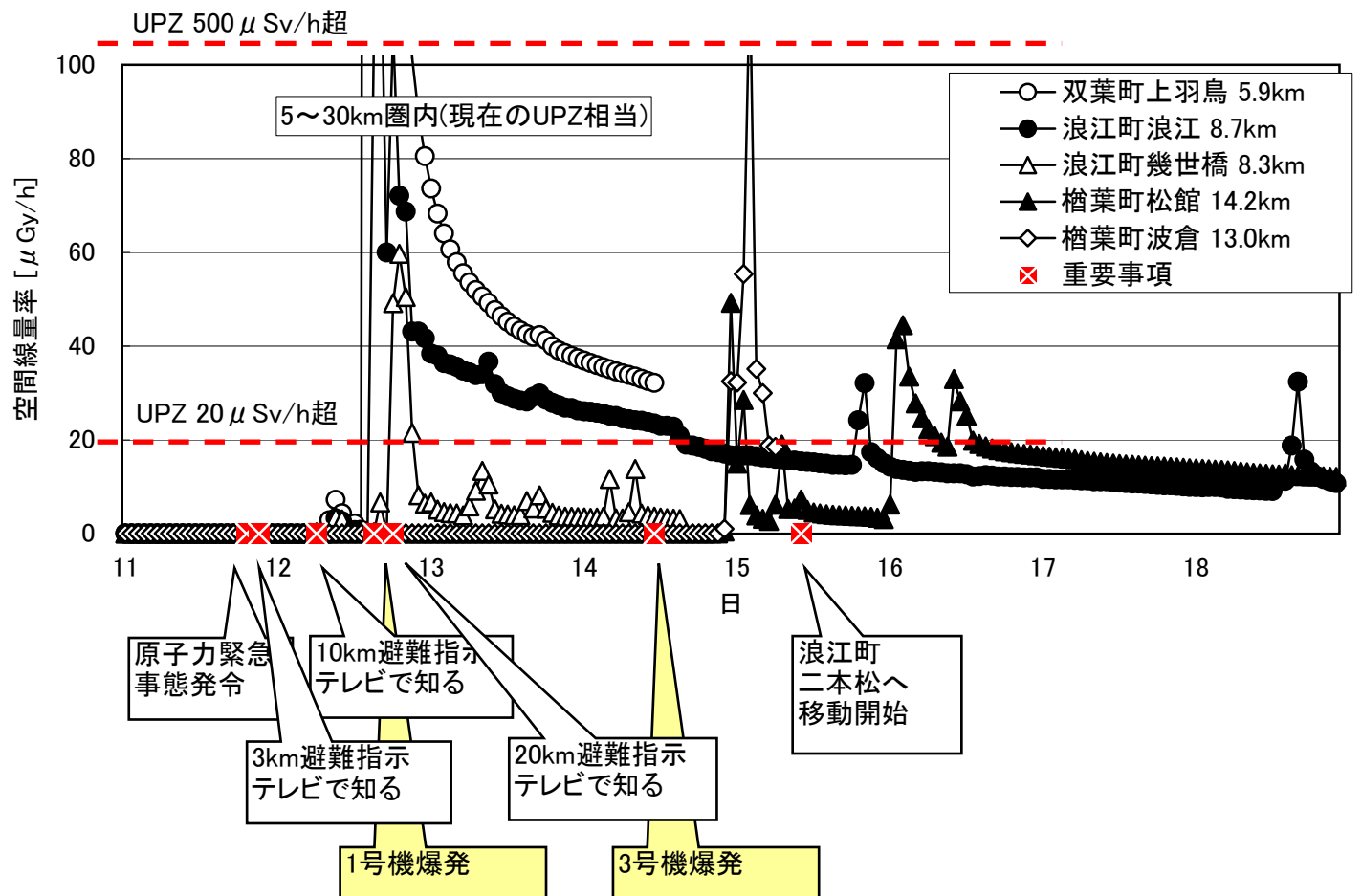
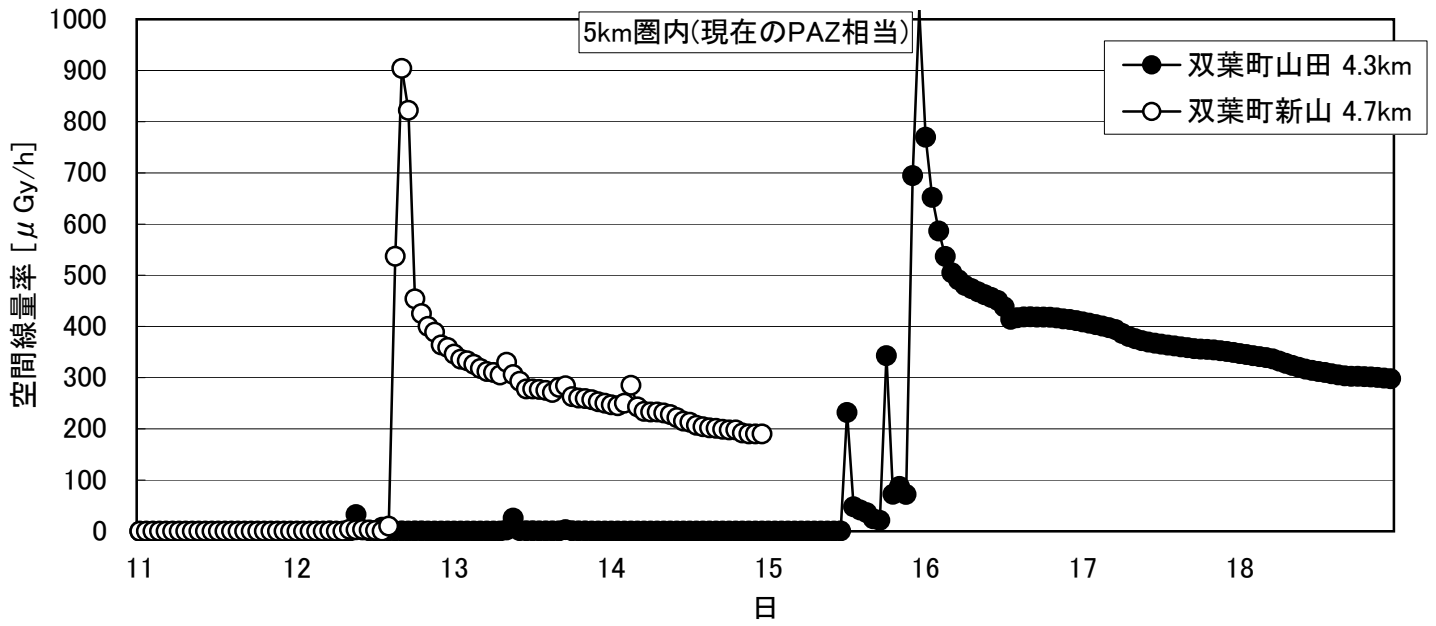
数値は3月11日～17日の累積 μ Sv

(途中で停電等による測定中断あり)

(記録紙目視読取りによる有効数字不統一あり)



MPと避難路の状況



福島事故 地震2時間半後に「炉心、1時間後に露出」 東電、予測を国・県に報告せず

2016年4月15日 朝刊

東京電力福島第一原発事故が起きた二〇一一年三月十一日、東電が地震発生から約二時間半後に、原子炉水位が下がっていた1号機の核燃料が約一時間後にむき出しになると予測しながら、法律で義務付けられた報告を政府や福島県にしていなかったことが分かった。炉心を水で冷やせずメルトダウン(炉心溶融)に至れば、大量の放射性物質の流出につながる。原発事故から五年余りがたつが、検証が必要な事故対応が依然、残されていることが裏付けられた。(宮尾幹成)

東電が事故当日の午後五時十五分ごろ、「約一時間後に1号機の炉心が露出」と予測していたことは、政府事故調査委員会の中間報告(一一年十二月)で明らかになっている。今回、報告義務がある予測結果を東電が伝えた記録が、経済産業省原子力安全・保安院(廃止)を引き継いだ原子力規制庁や福島県にないことが判明した。

原子力災害対策特別措置法では、原発事業者は核燃料の冷却ができなくなるといった異常の発生や、その後の応急対応の内容を政府などに連絡しなければならない。当時の菅直人首相は本紙の取材に「予測結果は首相官邸に伝わっていなかった」と証言。「1号機のメルトダウンが迫っているとの報告があれば、より広い範囲の避難を早く決められたかもしれない。検証が必要だ」と述べた。

政府は事故当日の午後七時四十五分から枝野幸男官房長官(当時)が記者会見し、原子力緊急事態宣言の発令を発表した。だが枝野氏も取材に「東電から(予測結果の)報告はなかった。会見の時点では1号機の水位は維持していると考えていた」と述べた。

政府は同九時二十三分、原発の半径三キロに避難指示を出したが、2号機の水位低下の情報がきっかけだった。1号機予測結果の未報告は、政府が避難指示を出すタイミングに影響した可能性がある。1号機はその後の政府や東電の解析によると、午後六時ごろに炉心が露出し、同七時ごろに炉心損傷が始まっている。

東電は取材に対し、報告しなかった理由は「分からない」とした上で「直前に『非常用炉心冷却装置が注水不能』と報告している。官邸には職員も派遣しており、緊急事態であることは伝わっていた」と説明した。

地震発生後の福島第一原発1号機をめぐる状況	2011年3月11日	14時46分	地震発生、原子炉は自動停止	政府や福島県に報告せず	
		15時37分	全交流電源喪失 (15時42分に政府や福島県に通報)		
		16時36分	非常用炉心冷却装置が注水不能に (16時45分に政府に報告)		
		17時15分	東電、約1時間後に炉心が露出すると予測		
		18時ごろ	炉心の露出が始まる(※)		
		12分~	官邸で与野党党首会談		
		19時ごろ	炉心の損傷が始まる(※)		
		3分	政府、原子力緊急事態宣言を発令		
		20時50分	福島県、半径2キロに避難指示		
		21時23分	政府、半径3キロに避難指示。 半径3~10キロに屋内退避指示		
		12日	早朝		菅首相、福島第一原発を訪問
			15時36分		原子炉建屋が水素爆発

※後の解析で判明

周辺自治体では、①現在の正確な状況、②今後の見通し、を当然知りたいであろう。しかし現場では、事態収束に奔走している中で、そのような余裕はない。

東電テレビ会議の映像 <http://photo.tepco.co.jp/cat3/0501-j.html>



※できるだけ発話通りに文字起こししたもの。

【本店】えー、広報班からお願いがございます えー、早速あの至近の情勢を踏まえたプレス発表の用意を進めているところでありますが、については、えーっと、当所職員あるいは協力会社の、被災者のありやなしや、ならびに放射線モニター関係のデータの、あー、把握が、えー必須の状況だと思っておりますので、各班のご協力をお願いしたいと思います、えー、よろしくお願いいたします。

次々と進展する事態の下、
確実な予想は不可能。

【本店】(発話者不明)何かあったら指示してくれ。

【本店】(雑音・しばらく沈黙)

【本店】えーと保安班からです。一応被曝評価につきましては、いまの風向きで、さきに評価したソースタームで評価します、で、実際のあのー、ソースタームどれだけ出たかっていうのは、観測値と比べて、あとでフィッティングさせます、それはちょっとお時間かかりますけど、とりあえず、あの仮想事故の、えー40パーセント炉心、えー40パーセントの、えー炉心損傷のモードで出します、あの40パーセントじゃない、100パーセントでいいんですね。

本店は住民避難のことを意識した発話のようである。しかし現場は自分たちの生命が危ない状況であり、意思疎通になっていない。

【第一】あ、すいません、吉田でございます。

【本店】はいどうぞ。

【第一】実はその(不明)そう思われます。

【本店】はい、はい、はい(応答なし)。

【本店】(Beep)さあ、あの、避難の要否の話になるから、早く線量のやつを、ちょっと…

【第一】避難できません。

【本店】あの、今は、今は、風はですね、南西方向です、海側に行ってるはずなんですけど。

【第一】今度は振動がなくて、かなり高く、高く爆発しております。

【本店】じゃあ、それ発信できるように準備して。

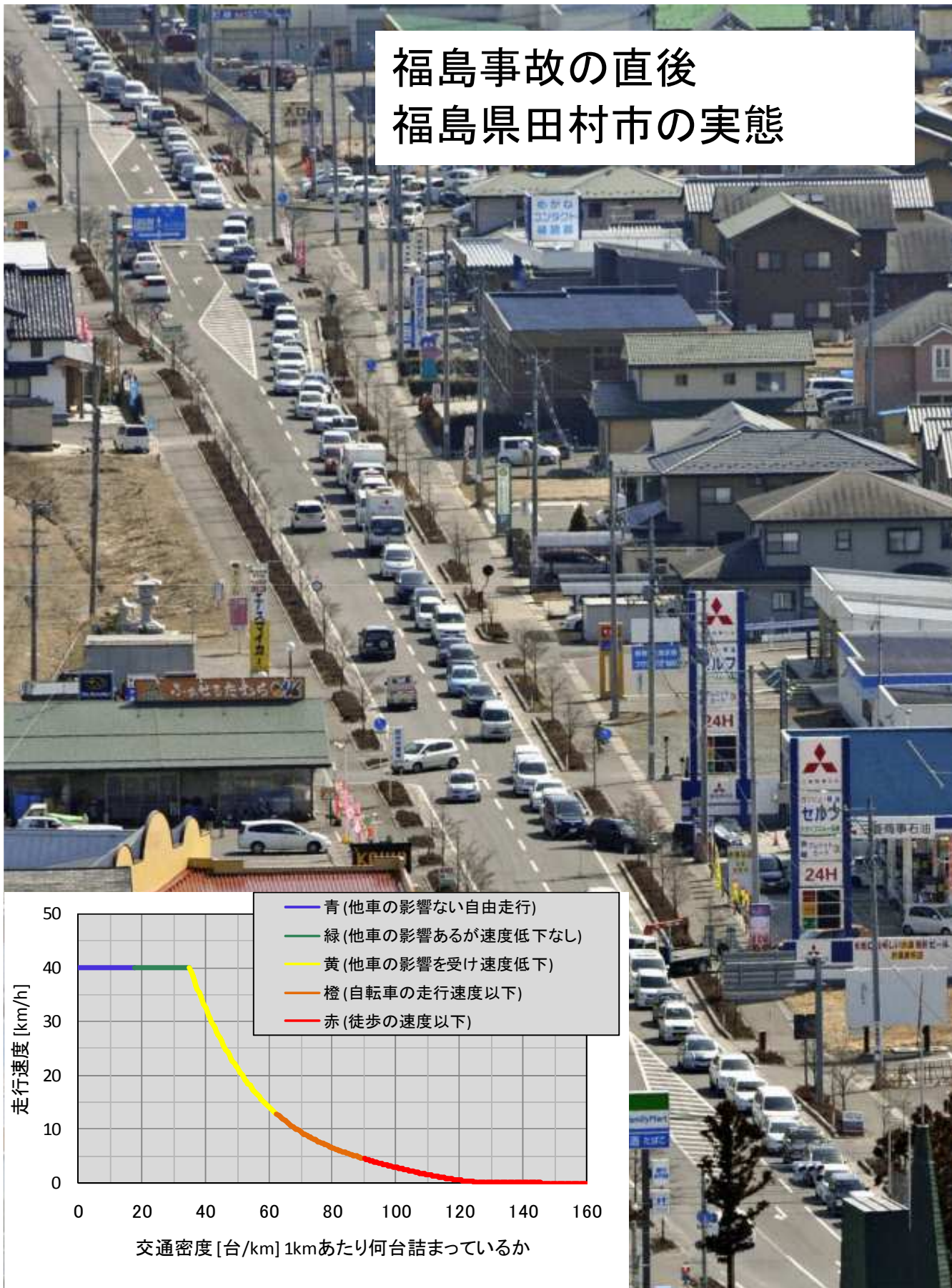
【本店】あとは、実際の風向き、2Fなんです。1Fで風向きが強かったり、何とか見えませんか、煙の方向か何かで。

【第一】あの煙の中で、いま見えないんです。

【本店】パラメータ、パラメータどうなってる? 各号機の。3号機、3号機変化ない?

【第一】3号機、一発目のちょっと変化ないですけども、あの、いま、はい? あの3号機だと思われまして、これはあの我々も、あの、テレビでしかわからないんですね。

福島事故の直後 福島県田村市の実態



○通常時の道路状況 20秒に1台通る程度。

○ピーク時でも60km/h程度(ほとんど他車からの制約なし)で走行できる。

○しかし地域の自動車が一齐に動き出すとこのような状況になる。